

平成 17 年度、あなたは、A 区保健所の保健予防課に転勤になり、一般職員として感染症対策を担当する立場となりました。

平成 17 年 12 月 13 日(火)の昼、

A 区内の B 病院の小児科医師から、あなたは次のような電話を受けました。

「下痢、嘔吐、発熱など胃腸炎の症状を呈する小学生約 20 名が受診している。
ほとんどが A 小学校の児童である。
血便のある者、症状の重篤な者は今のところいない。
食中毒、あるいは感染性胃腸炎の可能性もあると疑っている」

質問 1 電話が終わった後、あなたはまず最初に何をしますか。

(裏面に資料あります。参考にしてください。)

<グループメンバーに意見を求めてください>

<解説>食中毒や感染症の集団発生事件は、この様な第一報から始まる事が多いのです。病院だけでなく学校・施設など、さまざまな場所・さまざまな状況で始まります。あなた 1 人で判断すべきではなく、専門職や係長に相談した上で直ちに課長まで報告し、指示を仰ぐことを忘れないでください。

(資料1)

- 感染症とは：ウイルスや細菌などの病原体が人や動物の体内に侵入して、臓器や組織の中で発育又は増殖することを感染といい、感染によって症状が現れた場合を感染症という。
- 食中毒とは：食品・食品添加物・食品に使用する器具や容器包装などによって起こる比較的急性の胃腸炎症状を主とする健康障害。
- 胃腸炎とは：様々な原因により、下痢・嘔吐・腹痛などの症状をおこす疾患。
- 感染性胃腸炎とは：ウイルスや細菌などの感染を原因とする胃腸炎。
患者の便や吐物の中のウイルスや細菌が手や物を介して他の人に感染する。

(資料2)

都福祉保健局と保健所各課の関係は、以下のとおり。

福祉保健局健康安全室感染症対策課 ⇔ 保健所保健予防課

福祉保健局健康安全室食品監視課 ⇔ 保健所生活衛生課

報告を受けた保健予防課長は、直ちに所長に報告しました。所長は、食中毒（食物→ヒト）・感染症（ヒト→ヒト）の両方の可能性を考え、保健予防課・生活衛生課両課連携による「初動調査」の開始を決定しました。

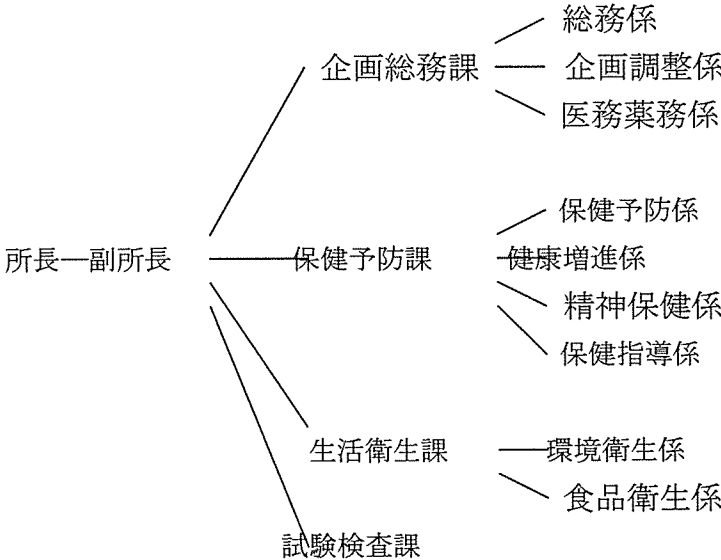
質問2 初動調査に当たって、保健所内の態勢をどうすべきでしょうか。分担すべき業務内容（班）を列挙し、おのこの担当すべき係名もあげてください。

<グループメンバーに意見を求めてください>

<解説> いったい何が現場で起こっているのかを把握する為には、「初動調査」をすみやかに行うことが重要です。特に下痢・嘔吐が主な症状の場合は、感染症と食中毒の両方の可能性があるので、保健予防課と生活衛生課の間の連携が必要です。編成すべき班のひとつは調査班です。①学校関係の情報をとる班と、②B 病院から情報をとる班が必要です。p.1資料3の組織で担当するなら、保健予防係と食品衛生係が協力して調査班を編成すべきでしょう。p.5 の<調査結果>にあるような「人」「食べ物」それぞれの情報が必要です。

また、多くの有症状者がでているため、区民から健康相談などの問い合わせが入る可能性があります。健康相談対応班を保健指導係で編成し、胃腸炎感染予防等の問い合わせ対応が必要になります。

(資料3) 保健所組織



保健予防課と生活衛生課は、次のような班を編成し初動調査を直ちに開始した。

初動調査班は、

- ① A 小学校の調査班
- ② B 病院の調査班 が必要です。
- ③ 教育委員会調査班

健康相談対応班: 胃腸炎感染予防の父母からの問い合わせ対応など

調査結果は、下記のとおりであった。

① A小学校調査班:

A小学校の発症者（下痢、嘔気、嘔吐、発熱、腹痛のうちいずれか1つ以上）は11日3名、12日56名、13日17名だった。調査班は、児童・職員名簿、出欠簿、献立表を入手した。

また、学校給食に関しては、食材は区内小学校共通で、調理は各学校の給食施設で行っている。食品及び給食施設のふき取り検査、児童・職員の検便検査を実施した。なお、A小学校および学区内では井戸水は使用しておらず、水道水の水質調査は依頼済みである。

② B病院調査班:

本件に関連する受診者は現在のところ22名。主症状は発熱、嘔吐、下痢、腹痛である。血便のある者・入院している者はいない。

③ 教育委員会調査班:

「他の小学校における発症状況」も調査すべきである。胃腸炎の流行が、A小学校固有の問題なのか、あるいは区内小学校に共通する広範囲の問題なのかを知る必要がある。

他の小学校では、いずれも同様の症状の集団発生は無かった。現在のところ、胃腸炎の流行はA小学校固有の問題である。また、他の小学校の発症者数については、今後しばらくは毎日電話で教育委員会に確認することとした。

少なくとも現時点では、A小学校のみで12日に急激に発症者が集団発生していることから、給食を原因とする食中毒の可能性も考えられる為、学校・教育委員会と相談の上、A小学校は給食を当面自粛し弁当持参とすることを決定した。

健康相談対応班

調査班が出かけて行って間もなく、胃腸炎多発のうわさを聞いた、A 小学校の児童の保護者から、問い合わせの電話がかかってきた。

「うちの子 2 人は、A 小学校に通う 1 年生と 5 年生である。具合が悪くなった子の親御さんから、下痢・嘔吐・腹痛の子が多数出ていると聞き心配になった。学校に聞いたが調査中というだけで要領を得ない回答だった。給食による食中毒ではないのか。うちの子は 2 人とも、今朝元気に登校して行き間もなく帰宅予定だが、家庭で何か気をつけることはあるのか。」

保護者からの問い合わせは、そのあと何件も続いた。

質問 3 調査をすすめると同時に、様々な方面から問い合わせのあることが考えられます。この時、注意すべきことは何でしょうか？

感染症の対応には迅速さが求められます。調査のための情報収集で忙しいときに、心配する親や教師、場合によっては報道機関などの外部から、問い合わせが次々に入ることがあります。このとき、課長を中心とした「情報提供窓口のひとつ原則」を守ることが大事です。情報の正確さ・迅速さにくわえて、各方面に提供する情報の整合性をはかることが求められるからです。

又、分担収集した情報は、必ず迅速に課長に報告する様、係長は特に気を配らなければなりません。事態の新しい展開毎に、課長は所長と相談の上、対応方針を総合的に判断する必要があるからです。同時に、対応している全ての職員が情報を共有し、統一のとれた対応がなされるよう、短時間のミーティングを頻繁に行うなど工夫しましょう。

健康相談対応班のうち一人(係長)は、主な質問と回答を記載したマニュアル(Q&A)を作成した。課長確認による Q&A があれば、問い合わせに対して統一した回答と保健指導ができるからである。マニュアルは、A4 ペーパー1 枚程度で充分。内容が時々刻々変わる可能性があるので、作成日時とバージョンを明記することも大切。

感染症集団発生時の情報管理の基本

- 情報窓口は**ひとつ!**
(特に外部へは原則課長。記者会見等必要時は所長。)
- 正確さ・迅速さにくわえ、情報の整合性をはかること!

今回の事例の、日毎の発症者数は以下の通りである。

発症者（下痢、嘔吐、発熱のうちいずれか2つ以上）数

8日	9日	10日	11日	12日
1人	2人	0人	6人	36人

13日	14日	15日	16日	17日
22人	0人	0人	1人	1人

18日
0人

質問 4 配布したグラフ用紙を使って、日毎の発症者数データから

ヒストグラム(度数分布グラフ)を各グループで作成してください。

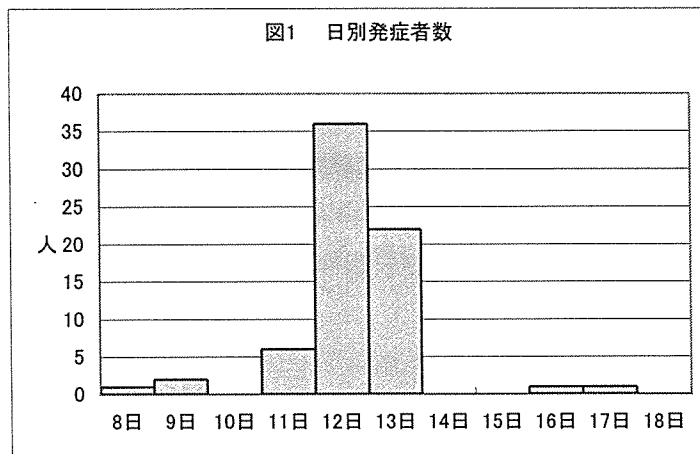
ヒストグラムとは、

統計で度数分布を表す柱状のグラフです。横軸上に階級、縦軸上に度数を目盛り、おのおのの階級の上に、度数を高さとする長方形を立てたもの。柱状グラフともいいます。

調査の結果、速やかに発症者数のヒストグラムを描く様にしてください。感染症や食中毒の集団発生の調査を進める際、ヒストグラムはとても重要な情報を提供します。特に、グラフの形は原因の推定に大変役立ちます。

グラフは、途中経過であっても課長を交えた調査チーム全員の検討材料としましょう。

調査の結果、日別の発症者数が、最終的には図1のようになった。



学校からの情報で、11日の発症者に、給食の調理担当者が含まれていることが判明した。その他、クラスによる偏り・座席の近い者で発症率が高い等、感染症を疑わせる報告は出ていない。

・・保健所では、以上の調査結果を整理して、16日(金)の朝に所内でミーティングを行った。この時点の結論は、「食中毒が疑われるが、感染性胃腸炎の可能性も否定はできない」。

学校側は既に給食を自粛しているものの、発病者はこの時点で100名近くまで増えた。福祉保健局と保健所との間で、記者発表の是非が検討されることになった。関係機関だけではなく、地域住民あるいは当事者の不安を考えると、新たな発症者は減りつつあることと併せて公表する必要があるとの結論に達した。①原因はあくまでも調査中であること、②食中毒と感染症の両方を疑っていること、を強調し、本件のプレス発表にふみきった。

13日(火)～16日(金)にかけて、保健所が状況説明・協力依頼を行ったのは、

- 学校・教育委員会
- 区長(助役)
- B病院
- 地区医師会 → 同様の症状の患者が他の地元医療機関を受診する可能性がある。受診者に対する調査を進める上でも地区医師会への情報提供・協力依頼は不可欠。
- 保健(福祉)センター → これらの部署は、患者家族などからの問い合わせが来るにもかかわらず、情報が無いことが多い。リアルタイムで全ての情報を提供する必要はないが、適宜保健所から連絡が必要。

○最後に、何者かによる故意の毒物混入の可能性を捨ててはいけません。その場合、警察への連絡も必要となってくることを忘れずに!

その後、検査結果が判明し、11日に発症した調理従事者の便・その人物の調理した食品・その食品を摂取した児童および職員の便からノロウイルスが検出され、ウイルスの型も一致した。また、その食品を摂取していない児童・職員からの発症者は無かった。以上の結果から、今回の胃腸炎集団発生の原因は、ノロウイルスに感染した調理従事者から調理の際に食品がウイルスによって汚染され、汚染された食品による食中毒の可能性が高いと考えられた。

そこで、A小学校・教育委員会と相談の上、臨時保護者会を開催し、保健所と合同で、今回の事案の経緯・結果を説明することにした。

質問 5 **あなたは、保護者会の資料の準備に携わることになりました。**
資料に盛り込むべき内容を考えてください。

保護者会では、学校と保健所が合同で、次の項目を含む段取りを組み立てるべきです。

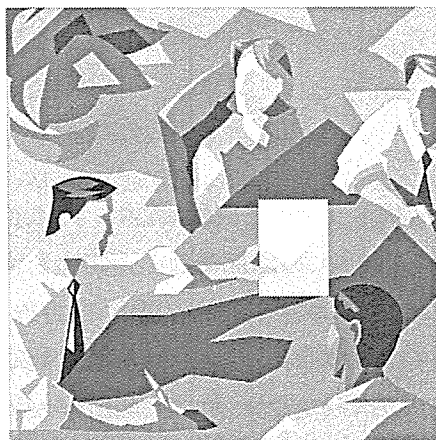
- 発生状況およびこれまでの対応策
- 検査結果と推定される原因
- 今回の案件に対する学校側の見解および対応方針
- 再発予防策

今回の胃腸炎集団発生の原因が調理従事者を原因とする食中毒の可能性が高いと考えられる為、学校側の補償等の問題が生じる可能性が高い。保健所は中立的な立場で事実の説明・専門的な助言を行い、今回の食中毒の早期収束・再発予防に努めるべきである。

・・やがて、A小学校の今回の給食が原因と考えられる全ての発症者が回復し、再発予防策を講じた上で、給食が再開されました。

質問6 管内地域における感染症集団発生に対し、あなたが平常時の備えとして、どのようなことに取り組むことができるかを考えてください。

感染症の集団発生は、土日・夜間を問わず、突然おこります。ここまでの設問で学んだことを確実にかつ迅速に行うためにも、所長・課長はじめ関係職員の連絡先を確実に把握し、かつ周知しておくことが大切です。また、発生時に必要な書類や器具の場所・内容をあらかじめチェックしておきましょう。日常的におこる感染症や食中毒の事例は、健康危機管理事例の予行演習と考え、皆さんの保健所では、流れ上改善すべき点がないかどうか、対応に関わりながら考えてみましょう。



いかがでしたか？

保健所は、チームワークが命です。

皆さんの活躍を期待しています。

講師一同

資料2:評価用調査票

事例演習「原因不明感染性胃腸炎様疾患の集団発生に対する保健所の対応」を受講した皆さんへ

国立保健医療科学院人材育成部 主任研究官 橘とも子

事例演習はいかがでしたか？

この評価表は、健康危機管理 e-ラーニング研修である本研修に関して、理解度、教育技術、有用性などを評価して頂き、また本件週に対する意見を窺うことにより、健康危機管理 e-ラーニング研修の充実を図ることを目的としております。質問は全部で8つです。個人の回答がそのまま公表されることは絶対にありませんので、忌憚のないご回答をお願いします。

質問1：あなたの職種を教えてください。

- a. 医師
- b. 環境衛生専門職 [薬剤師、獣医師、食品衛生監視員、環境衛生監視員]
- c. 保健医療専門職 [歯科医師、保健師、栄養士、その他]
- d. 事務職
- e. その他 ()

質問2：あなたの年齢を教えてください。 () 歳

質問3：保健衛生行政に従事した年数を教えてください。 () 年

質問4：本研修の理解度 [この e-ラーニング研修の内容を理解できましたか？]

- a. 十分に理解できた
- b. まあまあ理解できた
- c. どちらかといえば理解できた
- d. どちらかといえば理解できなかった
- e. あまり理解できなかった
- f. 殆ど理解できなかった

質問5：教育技術 [この e-ラーニング研修の教育技術は優れていると思えましたか？]

- a. 非常に優れていた
- b. 優れていた
- c. どちらかといえば優れていた
- d. どちらかといえば劣っていた
- e. 劣っていた

f. 非常に劣っていた

質問6：有用性 [この e-ラーニング研修の内容は、現場での実践に役立つと思いますか？]

a. 非常に役に立つ

b. まあまあ役に立つ

c. どちらかといえば役に立つ

d. どちらかといえば役に立たない

e. あまり役に立たない

f. 殆ど役に立たない

質問7：自由記載 [この e-ラーニング研修の良かった点、改善すべき点等をご記入下さい。]

[]

質問8：その他、e-ラーニング研修に期待する事など、研修全般に関する意見があればご記入下さい。

[]

回答ご協力有り難うございました。

資料3: 健康危機管理支援情報システム(H-Crisis System)におけるモデルプログラムの提供

場面1

原因不明感染性胃腸炎様疾患の集団発生に対する保健所の対応

TOP ページ

問題1: 第一報

問題2: 初動対応

問題3: 問合せ対応

問題4: 初動調査

問題5: 保護者会

問題6: 平常時の備え



でも、午前中受診した最後の子のお母さんが『A小学校で先週末頃から大勢吐いたり下痢したりしている』と言うので、大急ぎで今日受診したこのカルテを見たら、殆ど全員A小学校管内が住所の子どもたちばかりだったのですよ。一応保健所に情報提供すべきだと思って電話したのですが。」医師からの電話はあわただしく切れました。

次のページへ

この問題の
解説へ

資料 ①

資料 ②

前のページへ

次のページへ

場面2

原因不明感染性胃腸炎様疾患の集団発生に対する保健所の対応

TOP ページ

問題1: 第一報

問題2: 初動対応

問題3: 問合せ対応

問題4: 初動調査

問題5: 保護者会

問題6: 平常時の備え



報告を受けた保健予防課長は、直ちに所長に報告しました。

次のページへ

この問題の
回答・解説へ

資料 ③

前のページへ

次のページへ

場面3

原因不明感染性胃腸炎様疾患の集団発生に対する保健所の対応



調査班が出かけて間もなく、胃腸炎多発のうわさを聞いたA小学校児童の保護者から健康相談対応班のもとへ問合せの電話がかかってきました。「うちには、A小学校に通っている1年生と5年生の子供がいます。お腹をこわして具合が悪くなった友達の親御さんから、『お腹をこわしたり吐いたりしている子がクラスに大勢出ている』と聞いて心配しています。」

この問題の
回答・解説へ

TOP ページ
問題1: 第一報
問題2: 初動対応
問題3: 問合せ対応
問題4: 初動調査
問題5: 保護者会
問題6: 平常時の 備え

前のページへ 次のページへ

場面4

原因不明感染性胃腸炎様疾患の集団発生に対する保健所の対応

初動調査班が持ち帰った調査結果

A小学校 調査報告
B病院 調査報告
教育委員会 調査報告



この問題の
回答・解説へ

資料 ④
資料 ⑤

初動調査班がそれぞれに持ち帰った調査結果を確認してください。

前のページへ 次のページへ

TOP ページ
問題1: 第一報
問題2: 初動対応
問題3: 問合せ対応
問題4: 初動調査
問題5: 保護者会
問題6: 平常時の 備え

場面5

原因不明感染性胃腸炎様疾患の集団発生に対する保健所の対応

ノロウイルス検出

TOP ページ

問題1: 第一報

問題2: 初動対応

問題3: 問合せ対応

問題4: 初動調査

問題5: 保護者会

問題6: 平常時の備え





この問題の
回答・解説へ

その後病原体の検査結果が判明し、10日に発症した調理従事者の便・その人物の調理した食品・その食品を摂取した児童および職員からノロウイルスが検出され、ウイルスの型も一致しました。また、その食品を摂取していない児童・職員から発症者はありませんでした。



次のページへ

前のページへ

次のページへ

場面6

原因不明感染性胃腸炎様疾患の集団発生に対する保健所の対応

事実の説明・専門的な助言

TOP ページ

問題1: 第一報

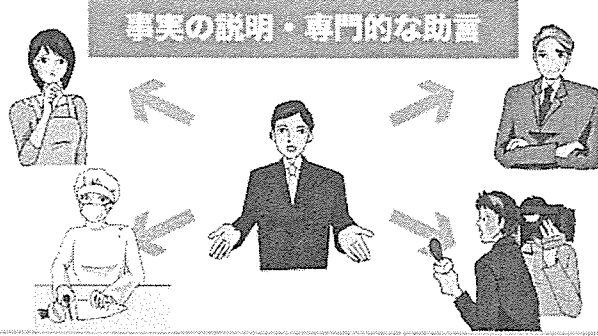
問題2: 初動対応

問題3: 問合せ対応

問題4: 初動調査

問題5: 保護者会

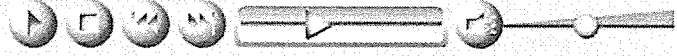
問題6: 平常時の備え





この問題の
回答・解説へ

保健所は中立的な立場で事実の説明・専門的な助言を行い、今回の食中毒の早期収束・再発予防に努めるべきです。



前のページへ

次のページへ

平成 17 年度 厚生労働科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）
健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する研究
(主任研究者：緒方裕光)

分担研究報告書

4. 「保健所長フォーラム」の活性化に関する研究

分担研究者 藤本真一 神奈川県秦野保健所

国立保健医療科学院のインターネットのポータル・サイト上にある「健康危機管理支援情報システム」内に、平成 15 年 3 月に開設された「保健所長フォーラム」の利用実態を、①既存の投稿内容の把握、②保健所長へのアンケートによるフォーラムの利用状況の把握、のふたつの方法により分析した。その結果、平成 17 年 9 月 30 日までの全投稿数は 142 件、投稿者は 13 人であった。一方、アンケートの有効回答は 404 件であった。それぞれの把握結果を詳細に分析し、①参加資格・公開性・匿名の許可については、現状を維持することが適当と考えられること、②投稿掲載の形状については、他のインターネット上に数多く見られる「掲示板」のような形に改めることが適当であると考えられること、③新規投稿発生時にユーザーである保健所長にメールを配信する仕組みを導入することが望ましいこと、④このフォーラム自体の周知の徹底が、なによりも急務であること、などを提言した。

A. 研究目的

「保健所長フォーラム」は、「健康危機管理支援情報システム」のウェブサイト内にある、保健所長の自治による自由記載スレッド形式のウェブ・ページである。このフォーラムは、平成 14 年度厚生労働省地域保健総合推進事業補助金を受け、「保健所における健康危機管理情報システムの構築に関する研究」班の事業の一環として、平成 15 年 3 月に開設された。しかし、開設後 2 年半経過した時点においても、活発な投稿は行われておらず、十分に機能しているとは言い難い。当研究では、「保健所長フォーラム」の利用実態を調査し、その結果を踏まえてフォーラムの活性化の方法を提言する。

B. 研究方法

「保健所長フォーラム」の利用実態を調査するため、下記の 2 つの方法を用いた。

1. 既存の投稿による「保健所長フォーラム」利用状況調査

開設された平成 15 年 3 月から平成 17 年 9 月 30 日までの間に掲載された全ての投稿を対象として、その記述属性等を分析した。ただし、既に削除されている、研修のための実習投稿等は対象外とした。

2. アンケートによる「保健所長フォーラム」利用状況調査

全国 547 保健所の全てに所長宛でアンケートを郵送し、同封した料金受取人払の無記名葉書により回答を回収した（アンケートの内容は別紙参照）。

C. 結果及び考察

1. 既存の投稿による「保健所長フォーラム」利用状況調査

①基本属性

平成17年9月30日までの全投稿数は142件、投稿者は13人であった。このフォーラムに参加する資格を有するのは、全国の保健所長（兼務先を含む）547人と国立保健医療科学院の管理担当者のみであり、投稿者は保健所長全体の約2.4%であった。

②投稿者について

13人の投稿者について、それぞれ何件の投稿があったかを調査した結果、投稿数5件以下の者が大半であった（図1）。しかし、30件以上の投稿をしている者が3人あり、この3人からの投稿が全投稿の77.5%を占めている（図2）。

図1 投稿件数別の投稿者数

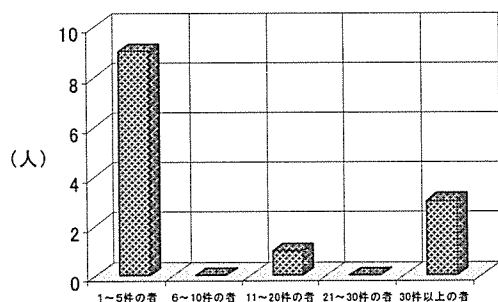
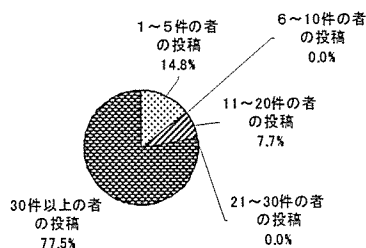


図2 全投稿における投稿者の内訳

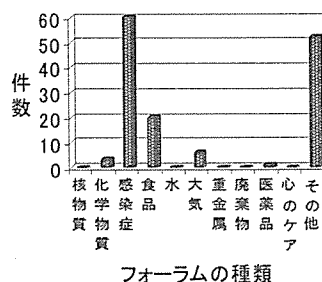


③フォーラム分野ごとの投稿状況

「保健所長フォーラム」はさらに「核物

質」「化学物質」「感染症」「食品」「水」「大気」「重金属」「廃棄物」「医薬品」「心のケア」「その他」の11の分野に分かれている。「感染症」「食品」「その他」には比較的積極的な投稿がある（図3）。

図3 フォーラムごとの投稿件数



しかし、ノロウイルスに関する投稿が「食品」と「感染症」に分かれてしまうなど、これらの分野区分がかえって利便性を損ねている面がある。また、ひとつの投稿の中に複数の話題が含まれており、それらが違う分野に属する例も少なくない。しかも、全く投稿のない分野が5つもある現状を考えると、この分類がそれほど活かされているとは言えない。投稿に関する分野分類を廃止し、自由に投稿できるようにすべきであると考えます。

④「キーワード」による集計

全投稿142件の内容をより詳細に集計するため、それぞれの投稿本文の内容をもとに分類のための「キーワード」を22種類設定した。原則としてひとつの投稿にひとつのキーワードを充てたが、同一投稿文中に重要な記載事項が複数ある場合には、例外としてキーワードも複数設定した。その際、たとえば一つの投稿にキーワードが二つある場合には、それぞれのキーワードによる投稿0.5件分として集計した（図4）。

このグラフのうち白色で示されているの

図4 キーワードごとの投稿件数

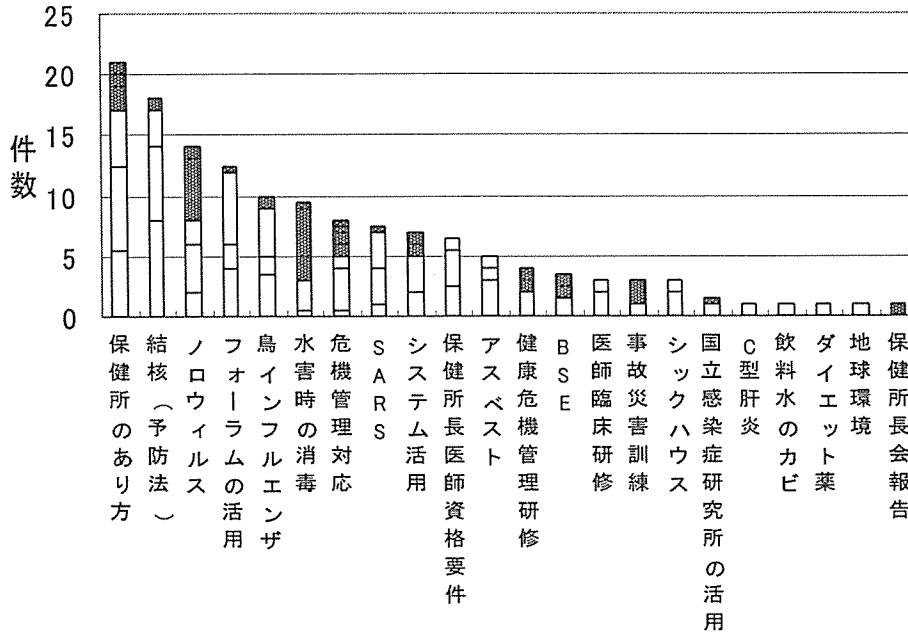
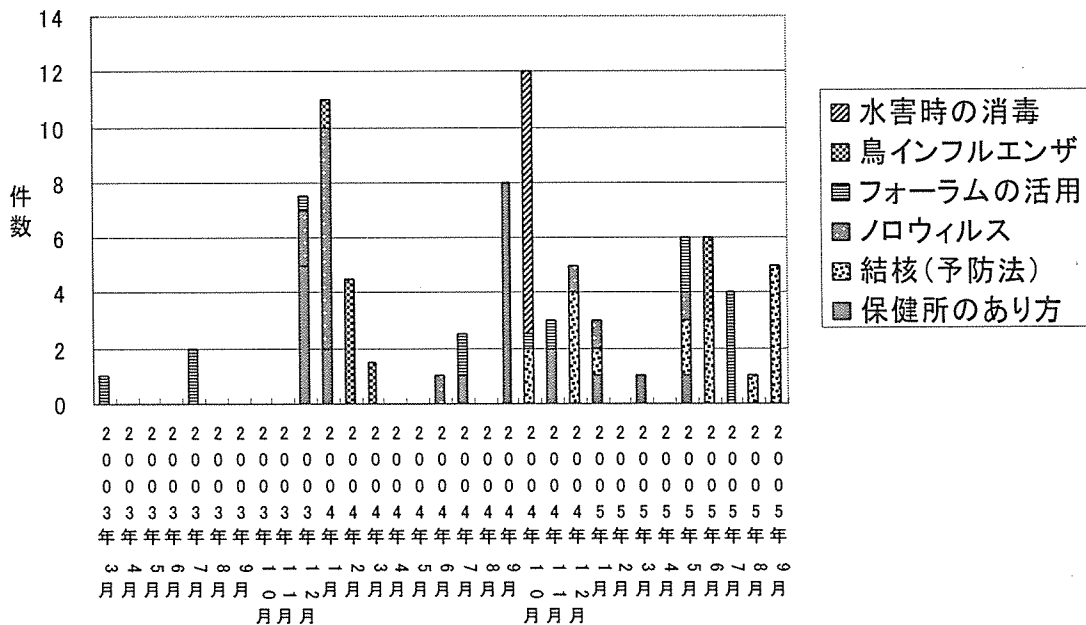


図5 月ごとの投稿件数



は、30件以上の投稿がある3人による投稿、着色部分はそれ以外、つまり投稿件数の少

ない者による投稿である。普段あまり投稿しない者が、「ノロウィルス」「水害時の

消毒」など、具体的な健康危機管理に直面すると投稿している様子が観察できる。

⑤投稿数の時期的な推移

上記④で設けた 22 種類のキーワードのうち、投稿数上位の 6 種類について、月ごとの投稿数を調査した（図 5）。

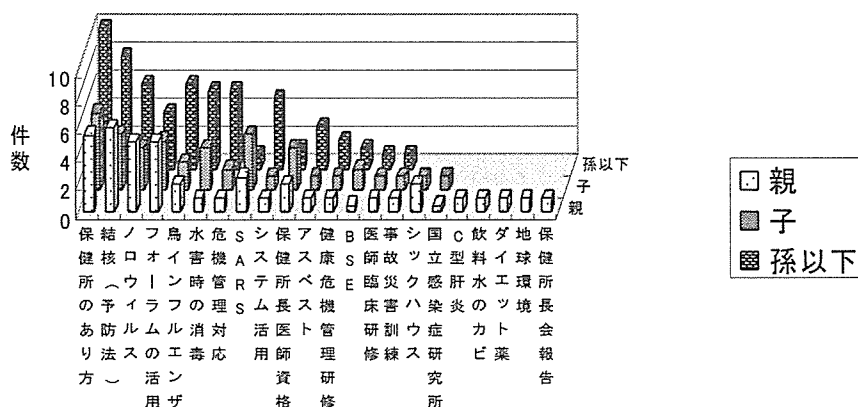
「水害時の消毒」に関する投稿が台風の多数襲来した 2004 年 10 月のみに集中している様子や、「鳥インフルエンザ」に関する報道があった時期にこのフォーラムにも投稿が寄せられた様子、「ノロウイルス」の感染例が増加する時期にフォーラムへの投稿も増加している様子がわかる。一方、平時の論議といえる「保健所のあり方」「結核（予防法）」「フォーラムの活用」については、議論の白熱により突出する月が見られるものの、時期的に極端に偏ることなく長期的に投稿が寄せられていることが観察できる。ただし、「保健所のあり方」は、危機管理発生時にその対応を論じるうえで合わせて言及されることも多く、危機管理発生に伴って増加する傾向もみられる。

⑥投稿世代別の集計（図 6）

投稿には、新しく話題を提示するものと、

それに対する返信とがある。前者を親投稿、後者を子投稿、その子投稿にさらに寄せられた返信を孫投稿（孫以下も同様）として、いわば投稿の「世代」別にキーワード毎の投稿数を調査した。「水害時の消毒」や「鳥インフルエンザ」については、少ない親投稿に多数の返信が寄せられ、短期集中的に議論が発展している様子が分かる。「保健所のあり方」「結核（予防法）」「フォーラムの活用」などは断続的に議論されているため、親投稿の数がかかなり多くなっている。また、「ノロウイルス」に関しても、感染の増加する時期になるたびに改めて話題が提供されるので、親投稿の数が多くなっている。しかし、このように同じキーワードの投稿が親投稿として複数投稿されてしまうと、かつて投稿された情報を探そうとするとときに紛らわしくて不便である。また、続報・近況などを投稿しようとするときに、どの投稿に関連付けて書けばよいか、混乱することも考えられる。

図 6 投稿世代ごとの投稿件数



⑦掲載方法の問題点について

「保健所長フォーラム」の中にある分野別のフォーラム（「感染症」、「食品」など）を開くと、まず投稿のタイトル・投稿者名・その所属機関・投稿日時の一覧が表示される。いわば投稿の目次のような機能を果たしているページである。このページの掲載方法についてふたつの問題点を指摘しておく。

a. 掲載の順序

このページのルールでは、子投稿は親投稿より下に、つまり、親・子・孫・曾孫と降順で掲載される。しかし、同じ世代の投稿の場合、新しいものが古いものの上に掲載され、昇順となるのである。フォーラムの中に実際にあった、降順と昇順が入り混じった例（図7）を示しておく。降順か昇順に統一して、投稿日時の順にストレートに並べた方が読みやすいのは明らかである。

また、ひとつの親に複数の子投稿が返信

されると、その話題の続報を投稿しようとする際にどの投稿への返信にするのが適切か、戸惑うことになる。

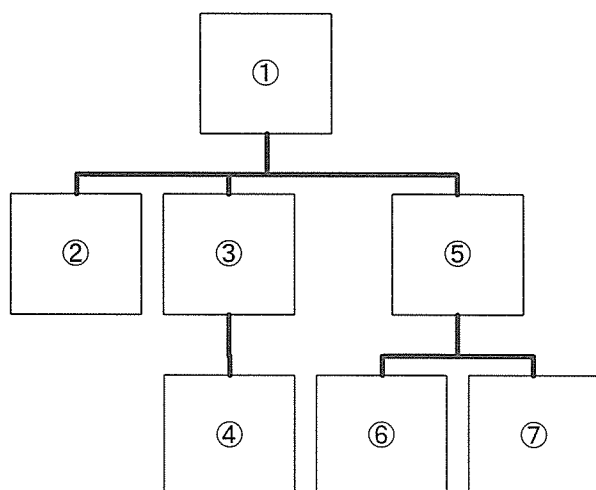
これらの問題は、返信は1投稿につき1件とし、兄弟関係になる投稿は廃止して、投稿が親→子→孫→曾孫...という一本の流れになるようにすることで解決できる。

b. 新規返信の掲載位置

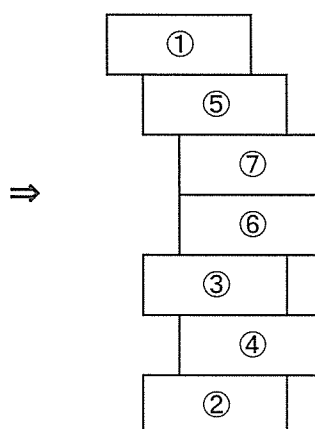
新しい返信が追加されても、元の親投稿が古いと掲載がページの下の方になってしまい、目に付きにくくなってしまう。これが、同じキーワードで複数の親投稿が投稿される原因のひとつと考えられる（図6）。この問題は、新規の返信投稿があった場合は、親投稿の投稿時期が古くてもページの上の方に移動して掲載するようにすれば解決できる。

図7 掲載順序

実際の投稿の順序と関係



目次に掲載される順序



2. アンケートによる「保健所長フォーラム」利用状況調査

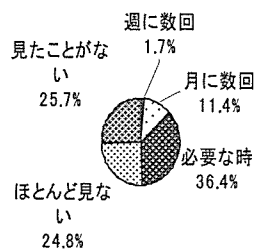
①基本属性

回答は 406 通回収され、74.2%の高い回収率を得た。ただし、そのうち 2 通は複数の保健所の所長を兼務している者が、回答の重複を避けるため 2 通目以降を無記入で返送した物であったので、有効な回答は 404 件であった。

②「健康危機管理支援情報システム」閲覧状況 (図 8)

「健康危機管理支援情報システム」を見るか、という質問に対して、「ほとんど見ない」「見たことがない」を合わせると過半数の 50.5%となった。また、「見る」と回答した者でもその 73.5%は必要な時しか閲覧していないことがわかった。

図8 「健康危機管理支援情報システム」閲覧状況

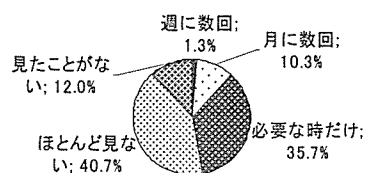


③「保健所長フォーラム」閲覧状況 (図 9)

「健康危機管理支援情報システム」自体を「見たことがない」と回答した 104 件を除く 300 件に限っても「保健所長フォーラム」を「見たことがない」と回答した者が 12.0%あった。「健康危機管理支援情報システム」のサイトは開くことがあっても、その中の「保健所長フォーラム」までは開かない者がかなりあることがわかる。また、ここでも上記「健康危機管理支援情報システム」の閲覧状況同様、「ほとんど見ない」

「見たことがない」と回答した者の合計が過半数の 52.7%にのぼり、「見る」と回答した者の 73.8%が「必要な時だけ」であった。

図9 「保健所長フォーラム」閲覧状況



④閲覧しない理由 (図 10)

「健康危機管理支援情報システム」や「保健所長フォーラム」を見ない理由について、「内容に関心がない」「あまり更新されない」「特定の人物ばかりが投稿している」といったフォーラムの内容そのものの問題を、のべ 119 人が指摘している。

一方、ID やパスワードがわからない、または面倒だ、といったアクセスに関する理由を選んだ者も合計 136 人存在し、軽視することはできない。「健康危機管理支援情報システム」を見たことがない者に限定すると、3 人に 1 人を超える者が「ID やパスワードがわからない」と回答している。また、「健康危機管理支援情報システム」を見たことがあるにもかかわらず「ID やパスワードがわからない」と回答している者があり、異動・失念などによりアクセスできなくなっていることが考えられる。このように、アクセス方法が閲覧の妨げとなっていることは否定できない。しかし、このフォーラムは、参加者を限定し、アクセスを制限するという考え方で構築されているので、単純にアクセスをフリーにすればよいということでは解決できない。このフォ